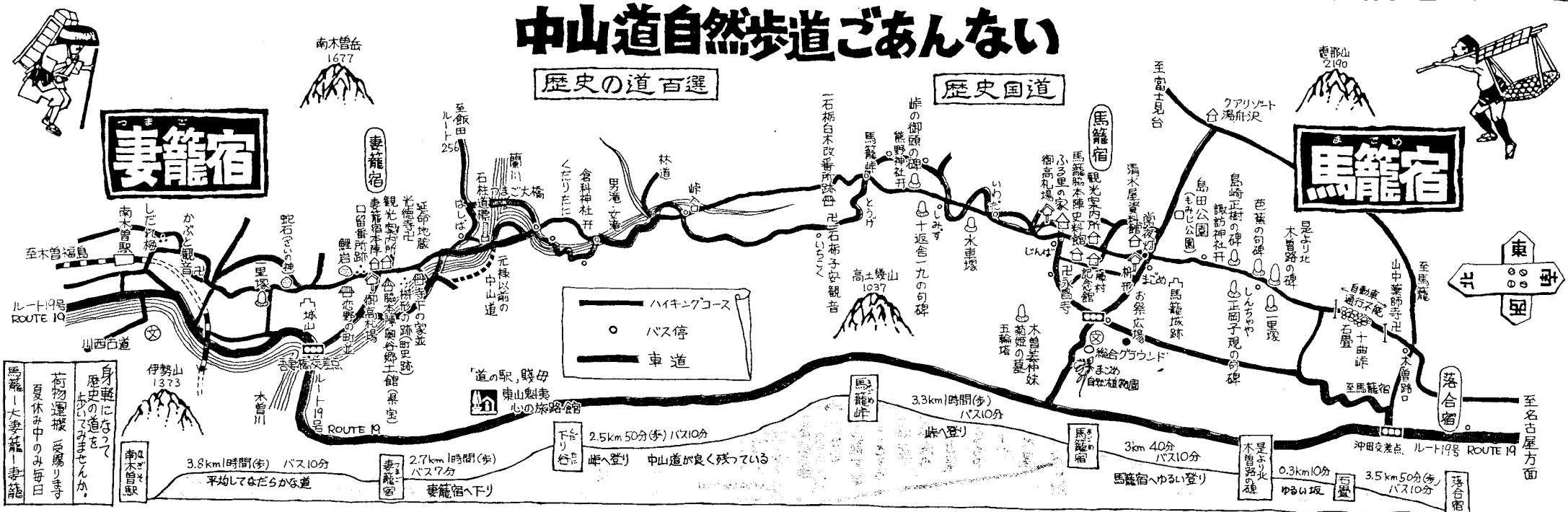
中山道自然歩道ごあんない

歴史の道百選　歴史国道



馬籠みどころ案内　十曲峠ー中山道自然歩道ー馬籠峠

是より北木曽路の碑 木曽路と美濃路の境にあり、地元の要請により島崎藤村の筆になるもので、昭和3年11月の建立です。

芭蕉の句碑 俳聖松尾芭蕉が木曽路を旅したのは、貞享5年8月、彼が41才の時でした。"送られつ送りつ果は木曽の秋"と更科紀行に残るこの句が、芭蕉を慕う地元の俳人達の手で建てられたのは、天保13年のことでした。

一里塚 徳川幕府は街道規律にきびしい定めを設けていましたが、一里塚はそうした制度の一つで、一里を36町(3.9km)とし、一里毎に土を盛って塚を築き、みちのりの目やすにしたり、輸送荷物の引継ぎや駄賃計算の基礎にしました。当時のままの姿で現存するものは少なく、貴重な史跡です。

十曲峠 美濃路は落合の宿場から馬籠宿にさしかかると、深い木立の中に石畳が昔のままに残っています。石畳は一種の舗装道路で、急な坂道の路面流失を防ぐために設けられたものといわれます。石畳の坂を登りつめるあたりを「十曲峠」といい、美濃路と木曽路の境になります。

馬籠宿 木曽川宿の一つで、美濃との境にあります。急な坂道の両側に石を積んで家を建て、宿場の中央には本陣、脇本陣、問屋などがおかれて大名達の宿泊に備えられたほか旅籠や飯屋が軒をならべていました。

藤村記念館 案内所と本陣跡にある記念堂・記念文庫・第二文庫・隠居所とをまとめて記念館といいます。記念館はかつて藤村の生家馬籠本陣・島崎家の建っていたゆかりの場所です。

馬籠脇本陣史料館 馬籠宿脇本陣が大名宿泊の際に使用された諸道具類や、同家に残された宿場の文献資料などが展示され、それらを通じてありし日の宿場の賑わいと当時の文化や人々の生活の様子を知ることができます。

清水屋資料館 清水屋は初代から馬籠宿の組頭そのほかの要職をつとめた家で、8代目原一平氏は島崎藤村との親交が深く、「嵐」では"森さん"で登場します。ここには、藤村書簡や馬籠の文化や生活を知る資料が展示してあります。

ふる里の家(民芸伝承館)郷土文化普及に活用されています。

永昌寺(臨済宗妙心寺派) 永禄元年(1558年)の建立といわれ、その後いくたびか建てかえられ現在にいたっています。島崎藤村の「夜明け前」では「万福寺」として登場します。

馬籠峠(海抜801m) 遠く宝歴の昔に建てられたままの古い家並が、300年の風雪に耐えて街道の両側に軒を並べ、かつては馬方や牛方の宿として賑わったところです。

枡形・高夜灯 江戸時代、各宿場の入口には「枡形」と呼ばれる空間が設けられていた。この枡形は他の宿場には例のない急傾斜地に設けられただけ、きさに城郭を想わせる。